

# 山びこだより

第7号 2016.3



視察研修団一行（宮崎県門川町林業研究グループ 岩佐寿美氏の所有林にて）

## 平成27年度 福岡県林業改良普及協会等「先進地視察研修」を開催

福岡県林業改良普及協会では、会員の意識向上と知識習得を図り、県内林業の発展に寄与するべく、先進地視察研修を実施しました。

また、今回は福岡県林業研究グループ連合会との共催となったことから、県外の林業後継者との交流も目的に、林業先進地である宮崎県日向地域を視察先として、県内の林業関係者25名が参加しました。

（1）期 日 平成27年12月3日（木）～4日（金）1泊2日

（2）視 察 先 宮崎県日向市ほか

（3）参加者数 平川光臣会長 他 計25名

（4）研修内容

- ①「日向地域における更新伐施業地の取組」門川町林業研究グループ連絡協議会 岩佐寿美氏
- ②「地域と連携したシカ被害対策について」宮崎北部森林管理署 日田仁志森林技術指導官
- ③「地域林業を担う林業関係者等との意見交換」宮崎県林業研究グループ連絡協議会
- ④「国産材流通の将来と中国木材(柵)の展望」中国木材(柵)日向工場

（5）研修生の声・研修報告レポート（一部要約、抜粋）

参加者には、研修で学んだことや、今後どのように活かしていきたいかなどをレポートとして報告していただきました。その一部を掲載します。

## 「日向地域における更新伐施業地の取組」

門川町林業研究グループ連絡協議会 岩佐 寿美氏

森林組合職員であり、門川林研グループのメンバーでもある岩佐氏は、裸山を購入して植林を行うなど経営意欲にあふれ、若いながらしっかりした考えと熱意をもって経営に取り組まれています。氏の林業に対する考え方や熱意に、参加者は非常に感銘を受けたようです。

(研修生の声)

- ◆門川町の中でも林業意欲が低下し、山林はいらない、売りたいといった人がいる。岩佐さんは森林組合の職員だが、全伐後の山林を取得し、林業に取り組む姿勢が素晴らしいと感じました。土地は売主の2倍で買い、スギ・ヒノキを植え、部分的には近隣の家への陽当りを考えて植栽すること。今後、保育作業を徹底して行い、見本となる山林になるよう期待しています。
- ◆宮崎のシカは小さいとのことで、シカネットの高さが160cmであるなど現場や状況に応じた対策を行うことが大事だと思いました。また「若者」が頑張っていると感じた。福岡でもそうありたい。
- ◆自分よりも若い組合の職員さんが施業をしていたので、負けられないという気持ちが湧いてきた。
- ◆若い人が土地を購入し、植林した事は将来を見据えた取り組みとして素晴らしい。ただ経済収支の試算があれば良かったかなど。財産としての山林は持つ意味がなくなっていることが今後の林業にどうひびいていくか心配。
- ◆皆伐をすればその後の管理（植栽～下刈等）が容易ではないと思う。しかし日向地域では皆伐が進んでいるようです。それなりの労働力が確保されているように思います。特に若い人の力があるようです。
- ◆中目以上になる前に更新した方が良いとのことだった。仕事も綺麗で感心した。裸地を購入してまでもやろうとする地域のやる気に岩佐さんのたくましさを感じた。帯状間伐の現場は見られなくて残念。
- ◆伐採跡の地持えの状況として、枝葉等が割と少ないように見受けられた。伐採等の搬出が全幹ともにされていると思えた。その要因が中国木材の進出によって、原木需要が増加したとの事で地域林業に大きな変化、影響をもたらしている事が強く感じられ、一貫した体制の必要性が大事と思った。
- ◆シカ防護用ネットについても、植林した幼木を育てるには必要なものであるが、完全な防護柵は出来ないと見受けられる。捕獲等、積極的な対策が早急に必要な事が理解できた。

## 「地域と連携したシカ被害対策について」

宮崎北部森林管理署 日田仁志森林技術指導官

近年、シカの生息数が増え※1被害も拡大したことから、シカ被害対策は林業関係者の大きな関心事となっています。特に本県は昨年より主伐事業を推進していることもあり、研修生は地域と連携した宮崎北部森林管理署の取組に熱心に聞き入っていました。今後の参考となる部分も多かったようです。

(研修生の声)

- ◆「囲いわな」※2に興味。シカ、イノシシなどが常用食肉となるような工夫・努力が必要と思う。
- ◆隣接する森林管理署や自治体、民間と連携して捕獲に努力されていること、囲いワナを研究・工夫されて実績が向上していることが分かりました。職員の9割がワナの免許を取得されていることは、シカ対策の熱心さのあらわれだと思いました。課題解決には多大な努力が必要であると感じました。
- ◆自治体や捕獲班と協定を結ぶなどし、囲いワナを設けたり、くくり罠を設置するなどネットで防ぐ以外にも頭数管理対策をしていることに驚きました。

### ※1「分布域拡大と生息数の増加」

シカの生息分布は1978年度以降大きく拡大しており、この36年間で分布域は約2.5倍に。

環境省は、北海道を除く本州以南に平成24年度末で249万頭のシカが生息（北海道は約59万頭）していると推計しています。

また、現在の捕獲率では10年後（平成35年度）には402万頭と1.6倍に増加すると予測されています。

このため全国でシカによる被害を効果的に防ぐ様々な取組が実施されています。

参考）「森林におけるシカ被害対策について」

（平成27年12月林野庁）



- ◆シカの捕獲が食料になることと直接つなぐ方法があればビジネスとなるのに、埋めてしまうのは残念。シカの命を奪うので捕獲する人の心の整理をしないと担い手づくりに支障がでるのではないかと。
- ◆福岡県でも今までシカがいなかった地域でもシカが出始めていることと、主伐を推進していることから、頭数管理をしていく必要があると思います。
- ◆八女地域でも最近シカを目撃した話などをたまに聞く事がある。もしかすれば数年の内に被害が出始めるのではないかと。どのような対策をすればよいのか参考になった。罠の設置の仕方なども学ばなければならないが、まずはシカの生態を知ることも大事なのかもしれない。
- ◆シカの被害は全国レベルで出現しているのではないのでしょうか。宮崎北部森林管理署では試行錯誤されてシカ対策が行われていると思います。
- ◆シカの個体数にびっくりです。シカ狩りの好きなハンターもいるとの事で、1年更新で森林をハンターにリースする事もあるようです。そうすればジビエへの活用もやりやすいのではないかと。
- ◆九州中央山地はシカの生息が非常に多いので、林業に大きな影響をもたらしている。国、県、地域猟友会との連携や、わなの貸出し等、シカ被害対策の現状や、捕獲の方法(囲いわな)について理解できた。今後八女管内にも同様な状況が想定されるが、そうなる以前の対策が重要であると考えられるので注目していきたい。
- ◆国有林は都道府県境に多く存在し、シカの分布域拡大防止対策では重要な山林と言える。森林管理署職員が自ら「職員実行」として捕殺を行っている事実に驚くとともに、さらに地域との連携も進めている事に感動した。



### ※2「簡易囲いわな」

従来の囲いわなよりも軽量の資材の利用により、移動運搬や人力での組み立てが可能な囲いわな。遠隔操作システムと組み合わせることで捕獲率の向上、人的コスト削減が可能。

宮崎北部森林管理署では管内14箇所を設置。2年間で70頭の捕獲実績を上げた。(資材経費は1箇所当たり約10~15万円とのこと)

注) 写真は林野庁HP

## 「地域林業を担う林業関係者等との意見交換」

### 宮崎県林業研究グループ連絡協議会

林業先進地である宮崎県の林業関係者(林研グループ、森林管理署、地域振興局)と意見交換を行いました。地域でのアイデアあふれる取り組みの紹介、また林業に対する考え方に触れ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

(研修生の声)

- ◆材価の上昇もそうだが、若い人たちが活躍していることに望みが見えた。
- ◆日向地域には森林と密接に関わる人が多いなと感じました。
- ◆1,500本/ha 植栽や天然更新などの話を聞き、今後の事業で参考にできればと思った。林研の活動についてももう少し話を聞ければよかった。
- ◆地域の課題を克服するため取組みされているのはすばらしい。地方でも多くの方が生活できる基盤づくりに国を



先進地宮崎の活気ある取組に意見も弾んだ(黒田会長)

あげて応援してほしい。

- ◆福岡県とは林業の規模が違うなど改めて思いました。
- ◆さすが宮崎です。活気があってたのしいです。岩佐さんの将来が楽しみです。
- ◆門川林業研究グループの会員の林業に対する考え方、将来展望を見据えてのやる気が感じられた。未植林地を反当たり10万円で購入し新植する事例を聞き、大きな驚きとともに、今後の取組の仕方を変える事の大切さを感じた。
- ◆日本一のスギ生産地であり、更には「中国木材」の進出の影響も大きく、林業家は自信を持っている、はつらつとしているという感じを受けました。また、森林組合の若手職員が林家を目指して積極的に取り組んでいる姿勢に感心しました。
- ◆全伐後をどうするか、植えるのを何にするかが大事。全伐後は10年で回せる早生樹はできないか。人工造林は儲かる制度が必要ではないか。林研として試してみてもどうか。また100年、200年の木も神社仏閣には必要であり、そのためにはいろいろな山林を作るべき。早生樹は失敗してもやりかえることができるのでは。「林業の明るい未来を信じて、前に進みたい」

## 「国産材流通の将来と中国木材(株)の展望」

中国木材(株) 日向工場

国内最大級の製材加工施設と、関連する原木土場やバイオマス発電施設を目の当たりにし、また中国木材(株)の将来展望を伺うことで、今後の九州地区の流通構造の変化を感じとることが出来たようです。施設の規模は圧巻の一言でした。

(研修生の声)

- ◆大きい。
- ◆工場からの廃棄物はバイオマス発電に使用した燃烧灰しか出ないということに驚きました。
- ◆バイオマス発電の電気は全て売電し、工場で使う電力は買っているとのことでした。
- ◆広大な敷地に最新の製材等の機械を設置した大規模工場でした。製材工場では年間30万m<sup>3</sup>以上の木材を消費するとのこと。また同じ敷地内で木質バイオマス発電を行い、木の全てを余すことなく活用されていました。(講習室に入る前に事務室が暗いと感じました。席についている職員のみ照明が点いていて節電されていたため)



効率化されたラインで年間約20万m<sup>3</sup>を生産している

- ◆一番に思ったのが規模の大きさだった。広く大型の機械の上に、ほぼオートメーションで製品が出来上がっているのに驚いた。林業機械も導入が進んでいるが、工場も機械化が進めば作業員の数も少なく労働災害、人件費の減少にもつながるのではないかと思った。また、製品にならない部分はチップとして利用できるため産廃も少なく工場内が凄くきれいだった。
- ◆日本の機械による生産システムが木材加工に生かされ廃棄物を出さない設計には感銘を受けた。維持管理でも工場のすみずみまで清掃され体制の強さを感じられる。同じシステムで小さな工場が各地にあれば活躍の場が増えそうだ。
- ◆中国木材の工場の規模の大きさに感動するとともに、工場の立地条件にも恵まれているように思いました。また、働く人が仕事の段取り等に努力されているように思いました。

- ◆大きくてびっくりです。将来の販路の重点を海外ということなので楽しみです。バイオマス発電の原料不足が心配です。
- ◆中国木材(株)が世界に目を向け、日本の林業をどのように生かしていくか取り組んである事、地域を大切にしている事がよく理解できた。施設は大規模で近代的。一貫した木材の活用。製品の供給販売。色々と感じる事ばかりでした。未だ計画中の集成材工場までできあがると、九州地域の木材流通も大きく変化する。好影響をもたらしてくれるだろうと期待しています。20万㎡の製材規模に驚きました。
- ◆県森連との連携、従来はなかった中目以上の専門施設、埠頭の整備、自家発電等々、中国木材の進出を改めて認識した。
- ◆規模の大きさと最新施設ならではのオートメーションに驚いた。全ての木クズが社内のバイオマス発電所で利用されている事は合理的ですばらしい。しかし製材工場は購入した電力でまかない、発電した電力は全て売電していると聞き、矛盾を感じた。FIT制度が合理性を歪ませていると思う。



木質バイオマス発電も稼働。将来は輸出も視野に経営を行う

## 今後、研修で学んだことをどのように活かしたいか

(研修生の声)

- ◆先進地というだけであって、育林から木材加工まですべてにおいて大変勉強になった。材を無駄なく搬出できれば林内が片付き、収入面も変わってくる。土場の確保という課題もあるが今後はバイオマスも考えた施業の方法も取り入れていきたい。
- ◆林業が今後どういう方向に進んでいくか理解できた。
- ◆林業だけでなく他の業種とのコラボで田舎での暮らしが組み立てられると、もっと良くなると思った。
- ◆これからの活動に学んだ事を取り入れていきたい。また異業種の方にも声をかけて活動していきたい。
- ◆さらなる更新伐の推進と労働力の確保が最大の課題です。地域資源を生かし、地域が元気になり、若者の定住へと繋げたい。良い風が吹いているので国策をもっと味方に国民にも理解していただきたい。
- ◆目前にせまっているシカ被害対策。早急な取組が必要であり研究していきたい。
- ◆将来展望を見据えて、森林所有者の考え方や、取組みを変化させるように啓もう、PRする。
- ◆原木流通は市場機能を果たしながらも変えていく必要があると思われる。具体的な対策を考えたい。
- ◆いつの日か材価の上昇も…という夢は捨て、植栽から育林、そして伐採、搬出に至る一連の流れの中で低コスト化を実現しなければ林業を「業」として再生することはできないと感じました。
- ◆研修で得た有益な情報を、効率の良い鹿被害対策に活かしたいと思います。
- ◆①林業経営に意欲を持つ人を育成、②シカ対策:捕獲奨励金の支給と増額、猟師の育成と雇用(自治体)等により個体数を減らすこと、③林業は長期にわたるもの。早生樹の導入も検討課題。④大規模工場と小規模工場の二極化が予想される。地域の製材所も必要。節電等の努力。

今回、ご多忙の中快く研修を受け入れていただきました、門川町林業研究グループ連絡協議会の岩佐様、宮崎北部森林管理署の日田様、宮崎県林業研究グループ連絡協議会会長の黒田様、中国木材(株)日向工場の皆様、大変ありがとうございました。また受入先との調整に際しては東臼杵農林振興局の世見様には大変お世話になりました。研修で学んだことを、今後の地域の取組に活かしていきたいと考えます。



## チェーンソー安全作業講習会(共催)

林業技術者の現場技術力向上と労働安全確保に資するため、チェーンソー安全作業講習会を県と共催しました。

- (1) 日 時 平成28年2月8日(月) 10:00~17:00
- (2) 会 場 福岡県資源活用研究センター(久留米市)
- (3) 参加者 17名(ほか講師7名)
- (4) 概 要

今回の研修はチェーンソー等を含む林業用作業機械の講師として著名な、日本森林管理技術・技能審査認定協会の石垣正喜氏ほか、GIT九州のメンバー4名の豪華講師陣を招聘して開催されました。

午前中はオリエンテーションの後、チェーンソーの目立てとして、基礎の確認から始まり、フック、バックスロープ刃の研ぎ直し等を実習。午後は班毎に分かれ、丸太を用いたチェーンソーワークとして、受け口や突込み、追いツル切り等の実習を行いました。また、途中デモンストレーションとして、センター内のメタセコイヤの模範伐倒を新誠木材の横尾講師が行うなど、内容充実の研修でした。

石垣講師の「人間工学的アプローチ」に基づいた理に適った指導も非常に参考になりましたが、実習後講義での「チェーンソーワークとは何か?」という問いは、参加者全員が労働安全、事故を主体的に防ぐ努力の重要性を再認識する、非常に良い機会となったように思います。



石垣講師の説明に聞き入る参加者

## 平成27年度 福岡県林業活性化シンポジウム(共催)

地域における林業関係者が、林業の課題解決とともに、将来の本県林業の在り方を考える機会として、「平成27年度福岡県林業活性化シンポジウム」を県と共催しました。

- (1) 日 時 平成28年2月25日(木) 13:00~17:10
- (2) 会 場 福岡西総合庁舎(福岡市)
- (3) 参加者 76名(遠藤講師含む)
- (4) 概 要

- ① 普及指導実績発表 県内6農林事務所より
- ② 記念講演「これからの福岡県の林業・木材産業の進むべき方向」  
NPO法人活木活木森ネットワーク理事長  
遠藤日雄氏

### ③ 意見交換会

シンポジウムでは、県の林業普及指導員から、それぞれの活動地域の課題解決に向けた取り組みについて実績発表が行われました。

(優秀発表:「福岡の松林の保全に向けて」宮沢淳子普及指導員、「朝倉地区森林・林業推進協議会の取組み」濱地秀展普及指導員)



各農林の実績発表者と遠藤講師

また、記念講演では、「これからの福岡県の林業・木材産業の進むべき方向」と題して、林政ニュースの対談でも有名なNPO法人活木活木森ネットワークの遠藤理事長にご講演いただきました。本県での取組みの参考となるようなご提案もいただき、参加者からは「自分たちの課題を見つめ直す良い機会となった」と非常に反響は大きかったようです。また、遠藤講師にはシンポジウム後の意見交換会にもご参加いただき、さらに貴重な意見を聞くことができました。協会では、来年以降も「林業活性化」に向けたイベントを継続していきたいと考えています。

## 福岡県フォレスター・プランナー等合同研修会(後援)

昨年設立された「福岡県フォレスター等連絡協議会」※3、「福岡森林施業プランナーの会」※4合同で開催された技術研修会の後援を行いました。

(1) 日 時 平成27年8月31日(月) 10:00~17:00

(2) 会 場 福岡西総合庁舎(福岡市)

(3) 参加者 68名

(4) 概 要

(ア) GIS・GPSの活用事例紹介・提案

「森林クラウドのすゝめ」糸島市農林土木課 池田将信氏

「スマホアプリを利用した森林情報の活用提案」 esri ジャパン福岡オフィス 外崎宣宏氏

「森林施業におけるGPS・GISの活用」 こかげ林業(株)代表 小山元氏

(イ) 特別講演

「タブレットによる森林施業の提案と活用事例について」住友林業(株) 榎崎達也氏

(ウ) 福岡県フォレスター等連絡協議会からの報告 福岡県フォレスター等連絡協議会事務局

(エ) 意見交換テーマ「輸出・バイオマス利用の課題について」

福岡県森林組合連合会、福岡県資源活用研究センター

研修会は、「現場力アップ」を求める森林施業プランナー等の要望に応え、日頃の業務改善につながるようなGIS・GPSの活用事例等を中心に、それぞれの講師から提案等がなされました。特に住友林業(株)榎崎達也氏からは、森林組合の業務を「森林管理サービス業」と定義し、森林施業プランナーは団地化・集約化を「営業活動」ととらえて行動するべきである旨の講演があり、参加した森林施業プランナーからは「視野が広がり、ためになった」という声が聞かれました。

時間の都合、今回は十分な意見交換の時間はありませんでしたが、今後も林業技術者育成のための研修会など、両会と連携して開催したいと考えています。



「タブレットを活用した施業提案」住友林業 榎崎氏

### ※3「福岡県フォレスター等連絡協議会」とは

地域林業のビジョンを描き、関係者との合意形成を図る役割を担うフォレスター(森林総合監理士)等の活発な活動を支援すべく、平成27年3月13日に国・県のフォレスター等36名で設立されました。

### ※4「福岡森林施業プランナーの会」とは

地域での具体的な森林施業の計画(森林経営計画)を作成する役割を担う森林施業プランナーの技能向上等を目的に、平成27年7月31日に県内34名のプランナー等で設立されました。

## 第62回 代議員会開催 話題提供

福岡県林業改良普及協会代議員会第62回代議員会が平成27年6月26日に開催され、北九州市森林組合参事赤松徹生氏を議長として3議案を審議し、全て原案どおり承認されました。

また、代議員会終了後には話題提供として、平成26年度の協会視察研修について福岡県八女森林組合の栗秋氏よりご報告いただき、さらに、コンテナ苗による一貫作業システムの取組結果等について、朝倉農林事務所林業普及指導員の濱地氏よりご講演いただきました。

協会では今後とも県内の先進的な取組に対して連携・支援を行い、情報発信に努めていきます。



コンテナ苗の取組等について（朝倉農林 濱地氏）

## 平成27年度 関係団体への支援活動

### (1) 「福岡県林業研究グループ連合会」の活動支援

県林研連では、今年度も県内の林業後継者（延べ97名）を全国の研修会に派遣するとともに、タケノコ・原木シイタケ栽培塾、林業架線集材研修など、各種講習会を積極的に実施しています。

### (2) 「八女林業振興大会」（平成27年10月23日）の開催支援

今年度は「持続可能な森林経営を目指して」をメインテーマに、記念講演や育林コンクールなどの表彰行事が行われました。

## 福岡県林業改良普及協会 会員募集中！

福岡県林業改良普及協会では、新規会員を募集中です！会員には森林・林業に関するタイムリーな話題が満載の「林業新知識」を毎月お届けします。森林・林業に興味を持っている方にもぜひご紹介下さい。

(1) 年会費 特別会員12,000円、普通会員2,000円

(2) 主な特典（※は特別会員のみです）

- ①森林・林業専門誌「林業新知識」を毎月お届けします。
- ②全国林業改良普及協会が発行する図書が割引価格で購入できます。
- ③※月刊誌「現代林業」（4,600円/年）を毎月お届けします。
- ④※全国林業改良普及協会が発行する「普及双書」（3冊組3,300円）をお届けします。

## 編集後記

今年度は、「福岡県林業研究グループ連合会」、「福岡県フォレスター等連絡協議会」、「福岡森林施業プランナーの会」などと連携して様々な事業に取り組みました。会員数が減少し、活動予算が限られる中ではありますが、関係団体と協力しながら、より一層活動の幅を広げていきたいと考えます。

今後も地域林業の発展のため、研修会の開催や関係団体への支援等を継続して行っていくので、会員の皆様の積極的な参加、ご協力をお願いします。（事務局：尾前・田中）

■編集発行 福岡県林業改良普及協会（福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター内）  
〒839-0827 福岡県久留米市山本町豊田1438-2  
(TEL) 0942-45-7868 / (FAX) 0942-45-7901

■発行日 平成28年3月